

女性議会
質問通告書一覧
令和5年1月25日

【発言の順番】

1番 野田 順子さん

テーマ： 西尾市の不登校児対策と教員の幸福度向上について

2番 手島 ほのかさん

テーマ： 女性が活躍できる企業誘致と産業振興について

3番 高木 早也花さん

テーマ： 地域活動における男女共同参画の推進及び外飼い猫の被害について

4番 田中 宏依さん

テーマ： アートを生かしたまちづくり戦略

5番 日下 千恵子さん

テーマ： スポーツによるまちづくりの促進

6番 岡安 結生さん

テーマ： 生理の貧困問題と理解の促進

7番 花井 優子さん

テーマ： 高齢者介護や障がい者の横断的な支援について

女性議会 質問通告書

氏名 野田 順子

テーマ	西尾市の不登校児対策と教員の幸福度向上について
<p>現状や課題 意見・提案事項</p>	<p>西尾市には現在 25 の小学校、9 校の中学校と佐久島しおさい学校があり、市内全体で約 15,000 人の児童生徒がいます。そして令和 3 年度末の市内の不登校数は、小学校で 151 人、中学校は 332 人です。不登校の定義は、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間 30 日以上欠席したもののうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」です。この数をどう感じますか？</p> <p>多く感じて少なく感じてこれも氷山の一角です。ここには欠席が 30 日未満の子、保健室や図書室へ登校する子、職員室や校門で先生に顔を見せて帰る等の記録上は遅刻や早退になっているたくさんの不登校傾向の子は含まれません。</p> <p>「子どもは、一人の人間としてその尊厳を尊重されるべきであり、人格及び能力を最大限に発達させ開花させるための学習権が保障されている。」憲法 13 条と 26 条です。また、「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う。義務教育は、これを無償とする。保護者は、子女を満 6 才から満 12 才まで小学校に、その修了後満 15 才まで中学校に就学させる義務を負う。市町村は、必要な小学校、中学校を設置しなければならない。」これは教育の義務で、よくこれは子どもが教育をうける義務があると勘違いされますが、この義務を負うのは大人たちです。これだけの数の不登校の子どもたちがいるという現実に対して、私たちはその義務を果たしていると言えるでしょうか？</p> <p>日本で不登校という言葉が日常になってかなり経ちました。本来子どもは、好奇心旺盛で、とにかく自分でやってみたいもの。しかし現状は違います。不登校は得てして子どもの側に原因があると思われがちですが、本当にそうでしょうか？不登校は子どもの問題ではなく、大人の問題だと突きつけられているのではないのでしょうか。</p> <p>不登校には様々な原因があり、それらが複雑に絡み合っているとされますが、私はその一番の原因は先生たちの幸福度にあると思っています。</p>

親の次に子どもに一番近い先生の職場が、過酷な職場。学生達は自分の人生を大切にできなくなると免許を取りたがらない。免許を持っている人は、自分の人生との天秤で離職する。先生が安心して働けないなら、子どもが安心して登校できるはずがありません。何かを犠牲にし、我慢している先生がつくる笑顔では、子どもたちを本当には笑顔にできません。先生が楽しくなければ、子どもたちは楽しめません。こんな現行のシステムの中で日々奮闘し続ける先生方には本当に頭が下がりますが、そうした先生たちの奮闘をもってしても、たくさんの不登校児と不登校傾向の子が西尾にもいます。子ども、保護者、先生個人の努力では限界です。未来の社会を担う子どもたちをたくましく育てるために、もっと抜本的な学校改革、特に先生方の幸せのための働き方改革が必要ではないでしょうか？

何でもそうですが、何かを根本から見直す時は一番の根っこに立ち戻ることが大切です。この問題の根っこは、教育とは本来何かという問いです。それはたくさんの知識を詰め込むこと？成績や評価でしょうか？なぜ私たちはこんなに一方的に勉強することを求められるのでしょうか？その時代の政治や社会が、都合よく管理できる従順な市民を大量生産するためになっていないのでしょうか？

私がこの8年、西尾市を拠点に全国規模で行ってきた教育をより良くするための市民活動で、日本の30年先をゆくとされるオランダのイエナプランに注目してきました。そのイエナプラン教育では、「教育とは未来の社会を創るもの。そこは未来の社会を担う子どもたちが、より良い社会を創っていけるように練習をする所。だからこそ学校は権力や社会等外側からの影響を受けるのではなく、外側に対してどう影響を及ぼしていくのかを子どもたちが学ぶところでなくてはならない。」としています。

また日本の文部科学省も、今の学習指導要領の中で「主体的、対話的、深い学びの実現」という言葉で同じことを表しており、また第8次西尾市総合計画の中で、西尾市が目指そうとしている、「児童生徒一人ひとりに未来を拓く「力と心」が育まれるまち」にも通じていると思います。私なりにこれをもっとシンプルに言うと、教育、そして学校とは人が幸せに生きるためのもの。すべての子どもの学習権を保障するために、その教育の義務を負うのは私達大人です。西尾市の未来をより良くしたいと本気で願うなら、学校をつくる教員のみなさんの幸福度を上げる時。教育現場の働き方改革に西尾市も本腰を上げる時です。

	<p>今のままではこのまちの未来を担うはずの多くの子どもの心を早々に折ってしまい、引きこもりやニート等、社会で活躍するのとは反対の人生を歩む選択をする若者を増やすばかり。それはその人や家族の人生だけでなく、西尾市全体にとってとてつもない程大きな損失です。</p> <p>「学校は楽しい！月曜日、仕事に行けるのが楽しみだ。」先生たちにとって西尾市の学校がそんな職場になれば、子どもたちも当然学校に来ることが楽しみで仕方がなくなります。先生が楽しく幸せに働ける場所なら、子どもたちも幸せな人生を生きる、たくましく頼もしい社会人へと成長していくでしょう。西尾市の学校を大人も子どもも心から楽しいと感じられる場所にすれば、慢性的な教員の不足も自ずと解消します。</p> <p>子どもたちが健やかにたくましく育つ西尾市にするために必要なのは、教員の幸福度向上です。そしてそのためには、大胆な業務の見直し等による教員の働き方改革が必須です。今こそ教育の慢性的なピンチを大きなチャンスに変える勇気を発揮していきませんか？子どもたちにその背中を見せて行くことが、最高の教育だと思いませんか？</p>
<p>質 問</p>	<p>1 西尾市は、今後、どのような不登校対策を行っていく予定ですか。その中でも特に不登校傾向の子どもたちに対してはどうかケアをしていく予定ですか。</p> <p>2 教員が人間らしく幸福に働けるために、教員の働き方改革を行う予定はありますか。行なうなら具体的に何をどのように実施していくのかを教えてください。</p> <p>【再質問】</p> <p>聞く耳を持ち、変化を創る勇気を出せる、先生や子どもたちと共に学校をつくれる管理職の配置、現場での対等な対話を助ける外部ファシリテーターの導入、しっかりとやった事とやめた事からの結果を振り返り検証していく、アップデートの気風の醸成等の旗振り役を、教育委員会が担っていきませんか。</p>

女性議会 質問通告書

氏名 手島ほのか

テーマ	女性が活躍できる企業誘致と産業振興について
<p>現状や課題 意見・提案事項</p>	<p>私は生まれも育ちも西尾市の生粋の西尾市民です。</p> <p>現在大学3年生である私は、将来の就職先について日々悩んでいます。自分の生まれ育った大切に思い入れもあるこの土地に恩返しがしたいと考える反面、地元の就職先は少ないと感じています。</p> <p>西尾市の土地は比較的安価で工業用地として開発可能であり、継続して企業の誘致に取り組んでいると施政方針の資料にありました。しかし、そのような取り組みの中でも、農業や工業など男性がメインとなって活躍する産業が多いと感じます。</p> <p>男女共同参画社会が進む中で女性の就業率は急速に高まっています。内閣府の調査では、平成28年時点で15歳から64歳女性の66%が仕事に就いており、10年前と比べると7.2%上昇しています。また、男女ともに半数以上の人々が「女性は子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考えていることが分かりました。</p> <p>保育園などの育児基盤や育児休業制度等が整備され、仕事と育児の両立が可能な環境が整ってきたこともあり、女性が働き続けることに対する社会の意識も大きく変わってきました。今や、女性は日本の労働力の多くを占めています。</p> <p>このような状況において、私のような20代女性が就職先として希望するのは、企画職やマーケティング職などのオフィスで活躍する分野が多いのではないかと思います。</p> <p>AIの発展により、将来的には事務職が無くなることや、今まで以上に情報技術が求められることが予想されています。そのような状況で、私は、AIの弱みである「人の感情を考えること」が私達人間に求められる仕事であると考え、そのような分野の仕事を希望するようになりました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、在宅勤務やワーケーションなど、働き方も変わってきました。就職活動をする若い世代は、仕事に対して工場勤務する製造業や農林水産業ではなく、より人と人とのつながりを大切にした仕事を求めている人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>西尾市が発展するためには、こういった若い世代、特に女性が働きたいと思える環境づくりが重要だと考えます。市外からのUター</p>

	<p>ンやＩターン就職者を多く獲得することで西尾の産業が発展し、活気あるまちにつながります。働いている人にとっても、希望する職場で活躍できることで幸福度が増し、西尾市に対する満足度も高まるでしょう。</p> <p>そこで質問します。</p>
<p>質 問</p>	<p>1. 市の産業を発展させるための方針は、どのようなものがありますか。</p> <p>2. 現在、どのような分野で企業誘致を進めていますか。</p> <p>【再質問】 今後、製造業以外の産業に対して、どのような支援を行う予定がありますか。</p> <p>3. 若い世代の女性がいきいきと働くことのできる環境づくりのために、市が取り組んでいることはありますか。</p> <p>【再質問】 女性の活躍を推進するための企業の取り組み事例として、具体的にどのようなものがありますか。</p>

女性議会 質問通告書

氏名 高木 早也花

テーマ	地域活動における男女共同参画の推進及び外飼い猫の被害について
<p>現状や課題 意見・提案事項</p>	<p>今日は2つの点について発言します。</p> <p>1つ目は地域活動における男女共同参画の推進について、2つ目は外飼い猫の被害についてです。</p> <p>1つ目の地域活動における男女共同参画の推進については、各地域の問題かもしれませんが、市民生活に最も身近な組織である町内会の現状を市は知っていますか。</p> <p>自分の例で言いますと、数年前まで市外に住んでいたのですが、西尾市に引っ越してきて初めて町内に婦人会という組織がある町に住むことになりました。</p> <p>私の住んでいる町内には名目上、町内会とは別組織の婦人会がありません。活動はそこまで頻繁ではないですが、内容は町内にある西尾市所有の墓地の掃除、公園内の地蔵の花替えなどです。新型コロナウイルス感染症が流行する前は、宗教的行事の手伝いや自主防災会の炊き出し、選挙運動の手伝いも行っていたようです。男女平等参画社会といわれるこの時代において婦人会の存在自体に違和感を覚えます。引っ越してきた際に入会の意味確認の作業も行われませんでした。</p> <p>内容は女性ではないとできない仕事ではないし、本来、個人の自由意思で行うはずの活動も課されていました。我が家は町内に墓はありませんが、「市の所有している土地だから墓の所有に関係なく町内全員で管理しなければならない」、と当時の婦人会長に言われました。その清掃活動自体も除草剤を撒いているので、ほとんど汚れていません。そして男性だけの世帯は婦人会の回覧に名前はなく、なぜかこの活動を免除されているようです。</p> <p>逆に町内会の会議などに私が出席すると参加者の約9割が男性で、各家庭の都合はあるかもしれませんが、すごく違和感があります。また、もし町内にゲイやレズビアンカップル、シングルマザーやシングルファザーの方が引っ越してきたら婦人会はどのように対応するのか疑問です。</p> <p>必要のない活動を減らせば時間的余裕もでき、どんなかたもいろいろな活動に参加しやすくなるのではないかと考えます。</p>

世界経済フォーラムが公表した世界ジェンダーギャップ指数で、日本は146か国中116位と大きく遅れています。日本全体の発展のために、まずは自分の身近なところから変えていく意識をそれぞれが持つべきですし、時代に合わせた運営をしていただきたいと思います。

2つ目の外飼い猫の被害については、私自身、西尾市に引っ越してきた当初から猫の糞尿・嘔吐物・車を傷だらけにされるなどの被害を受けています。自主防衛もしていますが、費用もかかるので限界があり、もちろんほかの近隣住民も被害にあって困っている様子です。私の住んでいるところは、猫を捕獲し、不妊去勢手術を行い、元の場所に戻すというTNR活動をしている市外のボランティア団体の方が手助けをしてくれたようですが、猫自体が居なくなったり、室内飼いにしたり、猫にしつけをしたわけではないので被害の根本解決にはなっていません。西尾市にはTNR活動を積極的にしている団体がいないようで、福地地区、一色地区及び寺津地区でも猫などの被害に困っているという話を聞きました。

また、餌やりや放し飼いをしている方は自分の行為が周りにとって迷惑だという意識がない方もいます。周辺ではあまり健康状態がよくなさそうに見える野良猫もいます。このままでは人間も動物も不幸な状態が続くのではないかと危惧しています。

また犬に関してですが、校区内の通学路やホワイトウェイブの近くで野良犬を見かけたことがあります。たまたまその時は車に乗っていたので良かったですが、子供と歩いていたらと思うとぞっとしました。

岡崎市は動物関連の相談窓口を一元化し、動物総合センターを保有しています。動物の飼い方講習を開催したり、条例も制定しています。また、安城市や蒲郡市はボランティア団体と地域住民が協力して地域猫活動をし、問題解決に取り組んでいます。

数年前に比べると、市ホームページの、猫を飼われている方への注意喚起のページは充実してきてはいますが、岡崎市のように町内で閲覧できるような注意喚起チラシのデータなどもホームページ上に載せていませんし、問題解決に向けて十分努力しているとは言い難いです。

西尾市は「さくらねこ無料不妊手術事業」を行っていますが、動物に関する被害で困っている人とボランティア団体をつなぐ体制が整っていないと思います。動物に関する被害は西尾市の広範囲に渡っており、もう県に任せればいいのかというような状態ではありません。

	<p>動物好きな人も、そうでない人も暮らしやすく安全な街になればいいと考えています。</p> <p>そこで質問します。</p>
<p>質 問</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市としてこのような婦人会の存在自体や運営に関してどのように考えますか。 2. 市独自の「町内会運営ガイドライン」を作成し、地域における男女共同参画を推進しませんか。また町内会の運営体制についての研修を実施しませんか。 3. 市の「さくらねこ無料不妊手術事業」の利用状況はどのようですか。 <p>【再質問】</p> <p>市は令和4年度から活動団体にチケットを配布し、その利用状況が25頭ということですが、頭数的には少ないと思います。今後活動を一層推進していくためには、積極的に周知する必要があると思いますが、どのように考えていますか。町内などに回覧するためのチラシやポスター・看板などを作成する予定はありますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 市独自で、猫などを外飼い・餌やりしている人物に積極的に注意喚起や助言などをする、また被害を受けている人の相談窓口になるような、動物に関する専門部署を設ける必要があると考えますが、その予定はありますか。 5. 市として野良猫や野良犬に関する条例を作ることを検討していますか。

女性議会 質問通告書

氏名 田中 宏依

テーマ	アートを生かしたまちづくり戦略
<p>現状や課題 意見・提案事項</p>	<p>私は、吉良町で生まれ育ちました。金蓮寺弥陀堂、華蔵寺、花岳寺、黄金堤、吉良ワイキキビーチなど、歴史があり、自然も豊かでとても過ごしやすい吉良町が大好きです。</p> <p>そんな吉良町の隣、一色町佐久島は、多くのアーティストとの連携により、フォトジェニックなアートが島内に点在し、美しい自然とアートが融合する風景が魅力で、島を訪れる人も増え、SNS等でも話題になる活気ある島となりました。</p> <p>また、中心市街地に目を向けると、名鉄西尾駅周辺のにぎわいを創り出すために「おいでつき」が新設され、駅を利用する際にピアノ演奏をよく聞くようになりました。「おいでつき」は、これまで利用されていなかった場所を有効活用するために、学生を対象にコンテストを開催し、そのアイデアが形となった場所で、週間おさかなクイズや定期的に音楽イベントなども行っており、休日などに賑わっている様子をよく見かけます。</p> <p>こうして賑わいを見せる場所がある一方で、西尾市の観光資源のひとつである、地元の吉良温泉街は、以前のような賑わいを見かけることがなくなってきました。その他、学生をはじめ、多くの市民が利用する名鉄西尾・蒲郡線は、存続の問題を抱えたままです。</p> <p>そこで私は、アートを通して吉良町をもっと活性化することで、これらの問題を解決できるのではないかと考えています。吉良町で生まれ育ったからこそ、地域に愛され、市外から多くの方が訪れる町になってほしいと思っています。アート作品の創作活動を通じて、アーティストと地域住民が交流したり、訪れた人が楽しみながら参加できるようなアートイベントを開催したりすれば、交流人口も増えて町がより賑わうと考えています。</p> <p>佐久島は、豊かな自然とアートが融合した地域づくりで、地域活性化のお手本だと思います。佐久島同様にすばらしい景観が売りの吉良温泉です。例えば、若手アーティストが吉良温泉に宿泊しながら創作活動ができる滞在型宿泊プランを打ち出し、行政が創作活動をバックアップするのもひとつだと思います。また、温泉街に景観を生かしたアート作品を設置しフォトスポットとなれば名鉄西尾・蒲郡線の利用者が増える可能性も上がり、観光客を呼び込めるようになると思います。市民からアートによる地域振興アイデアを募集すれば、まちづくりへの参加にもなり、地元地域への愛着の高まりや地域活性化も進むと思います。</p>

	<p>そこで質問します。</p>
<p>質 問</p>	<p>1. 今後、「佐久島アート」や「おいでつき」に続く、新たなアート事業を展開する予定はありますか。</p> <p>【再質問】 アーティストが、吉良温泉に宿泊しながら創作活動ができる、滞在型宿泊プランを実施しませんか。</p> <p>2. 市民参加型のアート関連イベントを企画し市内で開催しようとした場合、場所の提供や活動を支援する補助金制度はありますか。</p>

女性議会 質問通告書

氏名 日下 千恵子

テーマ	スポーツによるまちづくりの促進
<p>現状や課題 意見・提案事項</p>	<p>私は、出生が岡崎で、中学生から西尾市に住んでいます。西尾市民となり、「西尾のことをもっと知りたい」と思い、広報紙をよく見ていました。</p> <p>中学生だった頃は、以前暮らしていた岡崎市と比較し、「岡崎と比べたら駅前開発や下水道整備が遅れてるし、大きな公園も少ない！もっと西尾の魅力をPRしたらいいのに！」と口癖のように言っていました。</p> <p>あれから40年が過ぎ、現在も広報にしおは毎月読んでいます。以前掲載されていた記事で、西尾市がスポーツ・健康まちづくり優良自治体として表彰されたこと、また、令和3年4月には、スポーツ都市宣言をしたことを知り、スポーツによるまちづくりの促進に興味を持ち始めました。市のスポーツ施策を調べてみると、現在、「スポーツまちづくりビジョン2040」の策定が進められており、ビジョンの基本的な考え方が公表されていることもわかりました。</p> <p>ビジョンの基本的な考え方の中で、私はあらためて2つのことが重要であると感じました。ひとつは、「市民の活動のニーズに合わせた施設を整備し、活発なスポーツ活動ができる環境整備」、もう一つは「市内外から人が集まる拠点づくり」です。</p> <p>私の娘は、日頃から健康づくりのためウォーキングしています。先日、娘が「公園に健康遊具があれば、簡単な運動ができるんだけどな」と話していました。市内には多数の公園がありますが、健康遊具が設置してある公園が少ないように感じます。そこで調べたところ、健康遊具が設置してある都市公園は、11/64（17％）で、都市公園内の公園遊具数は52/305（17％）でした。52基のうち26基がベンチ系ということもわかりました。近隣市と比較すると西尾市はとても少ないと思います。少子高齢化が進むなか、誰もが健康で生き生きと暮らせる地域社会を目指して、時間にとらわれず、通勤時や隙間時間を活用し気楽に体力向上を狙えるような健康づくりの環境整備は、地域の健康づくりの拠点として必要だと感じます。</p> <p>そこで質問します。</p>

<p>質 問</p>	<p>1. スポーツによるまちづくりを進める中で、市民が気軽に体力づくりができる計画はありますか。</p> <p>【再質問】 西尾駅東駅前広場や八ツ面山公園などの都市公園で、若い方から高齢者まで幅広い年代が、息抜きを兼ねて運動できるような健康遊具を整備する計画はありますか。</p> <p>2. 最近、体力づくりのためにジョギングをする人をよく見かけます。昨年、市内で「にしおマラソン」が初めて開催されましたが、参加者数はどれくらいでしたか。また、そのうち、市外からの参加者の割合はどのようですか。</p> <p>【再質問】 これだけ多くの方が市外から参加していただいているということですが、さらに、多くの方々に集まっていただけのように、遠方から来る方向けのプランとして、前日入りのプラン（A）と、大会後に宿泊される人のためのプラン（B）を作り、西尾の観光名所や名産品を堪能できる宿泊プランを提供してみませんか。</p>
------------	--

女性議会 質問通告書

氏名 岡安結生

テーマ	生理の貧困問題と理解の促進
<p>現状や課題</p> <p>意見・提案事項</p>	<p>私は現在、大学で福祉の勉強をしており、生理の貧困問題と理解の促進を目指した活動を行っています。</p> <p>「アルバイト代が減り、生理用品を買う余裕がない」、「節約のために生理用品を交換する頻度を減らしている」…そんな悲痛な声を皆さんは聞いたことがありますか。</p> <p>長期化するコロナ禍で生活困窮者が増えつつあり、女性の生理用品のコストが困窮者をさらに苦しめていると言われ社会問題になっています。あるテレビ番組で、「学生の5人に1人が生理用品の入手に苦労している」など、日本でも「生理の貧困」が広がっている実態が報道されていました。</p> <p>「生理の貧困」については、ここ数年、世界各地で大きく取り上げられており、制度や法律を変えるほどになっています。その背景にあるのは、SNS等を通じて女性たちの“声なき声”がシェアされるようになったことと言われています。さらに、各国で女性議員の数が増えており、女性の視点を入れた法改正が進むようになったことなどが考えられると思います。</p> <p>5人に1人の学生が直面している、「生理の貧困」。私の通う大学では、学生向けの支援活動を行っており、大学内で生理用品の無料配布を行いました。9日間で約1,000袋近くの生理用品を配布したところ、かなりの需要があることがわかりました。また、こんなにも多くの女性が、経済的な理由はもちろん、家庭環境など様々な理由が原因で、生理用品を充分に入手することができていないのかと、私は驚きました。</p> <p>女性にとって毎月の出来事である生理。生理は個人差が大きく、生理痛のひどい痛みやその他の症状を和らげるためには、薬に頼る場合もあります。また、生理中の症状が日常生活に支障が出るほどひどい場合は、病院を受診する方もおり、医療費もかかります。生理用品は1点あたり数百円。しかし、医療費などを含め考えると、生涯コストは非常に大きいものです。</p> <p>国会でも相次いで取り上げられた「生理の貧困」。政府は、コロナ禍で女性を支援する団体に生理用品の配布などを行う費用の交付を決めたという報道もありました。女性の仕事や暮らしに大きな打</p>

	<p>撃を与えている実態が浮き彫りになっている今、西尾市においても生理の貧困問題に対する取り組みを行う必要があると考えます。そこで質問します。</p>
<p>質 問</p>	<p>1. 市で生理用品の無料配布などの支援活動を行ったことはありますか。</p> <p>【再質問】 小中学校での配布方法はどのようなのですか。また、無料配布に対し、児童・生徒及び保護者からどのような反響がありますか。</p> <p>2. 長期化するコロナ禍で、生理の貧困問題が浮き彫りになりましたが、この地域で予測されている南海トラフ地震のような災害が発生した場合、生理用品をストックする余裕がない人は、特に困るのではないのでしょうか。</p> <p>地域防災計画に記載されている災害備蓄品の中に生理用品があり安心しましたが、消耗品ですので、避難生活が長期化して数が不足する場合の調達方法はどのようになっていますか。また、避難所などで生理用品の配布はどのように行われる予定ですか。</p>

女性議会 質問通告書

氏名 花井 優子

テーマ	高齢者介護や障がい者の横断的な支援について
<p>現状や課題 意見・提案事項</p>	<p>私が議題にしたいテーマは、高齢者介護や障がい者の横断的な支援についてです。昨今介護に苦しんでいる方も多いですが、私自身もその1人です。これらの課題やこれら以外でも何か面倒を見る人たちに寄り添う施策や方針等についてご意見いただけたらと思います。</p> <p>私は、西尾市内で製造業を営む主人の会社で息子と共に働いております。また、同居する家族とは別に、市内の実家に認知症の母、ほぼ寝たきりの父、精神障がいを持つ妹がいて、長期間3人の面倒を見てきました。私には他に弟と妹がいますが遠くで暮らしているため、3人の世話は近くに住む私の家族でしていました。一時期、弟のお嫁さんも手伝ってくれたのですが、体調を壊してしまい結局私の家族だけで担っていました。</p> <p>毎日仕事をしながらの家族の世話は、本当に大変な日々でした。</p> <p>父は脳梗塞を患ってから寝ていることが多くなり、後遺症からうまく話せないため無口になりました。</p> <p>妹は30年前から統合失調症を発症しており、人間関係などから10年前位からは全く働いていません。被害妄想がひどく、幻聴、破壊行為、暴力的衝動などもあり、突然大声を上げて暴れたりします。</p> <p>もともと明るい性格だった母は、認知症が進んで怒りっぽくなるとともに、一年以上お風呂にも入らずおむつもあまり取り替えなくなるなど、不衛生な状態で見ると耐えないほど痛ましい状態でした。</p> <p>そんな母と妹と一緒にいると、毎日のように問題が起きます。家の中は泥棒が入った後のように散らかっており、お金の管理ができず、家族内の金銭トラブルが常態化していました。</p> <p>妹が両親に対して物を投げたり暴行したりするため何度も警察に通報し、その度に、工作中や夜中であっても私が呼び出されたため、心も体もヘトヘトでした。</p> <p>2年ほど前に父が他界し、母と妹だけになった実家の暮らしは以前にも増して大変になりました。行政の方も親身になって聞いてくれ同情はしてくれましたが生活はあまり変わらず、協力してくれていた夫にまで「お前の家族にはほんとに困る！これだけ仕事を抜けていたら普通はクビだぞ！」とポロッと本音を言われ、自分の母と妹なのに面倒</p>

	<p>を見るのが嫌になり、ニュースで度々取り上げられるような、介護疲れで間違いを起こす人の気持ちが分かるようにさえなりました。</p> <p>そんなある日、また警察沙汰になり、その時初めて市の福祉課ではなく保健所職員の方から電話がありました。その方は「すぐお母さんと娘さんを離してあげて！このままじゃ何が起こるかわからない！」と言ってくださり、ケアマネジャーの方に対しても「何でこんなになるまで放っておいたの？すぐに何とかしてあげて」と頼んでくださいました。</p> <p>そのおかげで、その日のうちに母のショートステイ先の特別養護老人ホームを見つけてもらえ、今はそこに入所しています。それまでずっと「我慢するしかない」と思っていただけに、本当に感謝しています。</p> <p>現在、一人暮らしとなった妹の面倒はヘルパーさんや訪問介護の方、そして私の家族にも協力してもらい、何とかなっている状態ですが、まだまだ心配や問題は尽きません。</p> <p>これは、私の家族だけの問題ではなく、日本中に同じような問題を抱え大変な思いをしている人達が多くいます。日本は少子高齢化社会が進んでおり、厚生労働省の発表によりますと、平成 28 年度末の要介護（要支援）認定者数は 632 万人で、平成 18 年度末と比べると 10 年間で約 1.4 倍に増えています。こうした中で老老介護、介護難民、介護離職などの社会問題も多く存在しています。</p> <p>日本は経済的に恵まれた国で、一見社会保障が充実しているように思いますが、行政の方々の対応は「とりあえず話はわかった」「辛いかもしれないがあなたが頑張らなきゃだめですよ」と言われているような気がしてなりません。私の周りにも家族や親族の面倒で自分を犠牲にしている人がたくさんいますし、そういった人達が他に頼ることもできず、思い詰めた末に起こす悲惨な事件も無くなりません。高齢者や障がい者本人に寄り添うことももちろん大事ですが、その家族にも寄り添う体制や制度がまだまだ不十分なのではないでしょうか。</p> <p>そこで質問します。</p>
<p style="text-align: center;">質 問</p>	<p>1. 高齢者、障がい者及び要介護者の支援制度について、どのように周知していますか。</p> <p>2. 高齢者、障がい者及び要介護者本人にとどまらず、その面倒を見る人たちを支援する、横断的な「ワンストップ窓口」を設置し、病院、警察及び各種施設との連携も進めませんか。</p> <p>また、後見人や同居の家族でなくとも必要な手続きができるよう、柔軟な対応をしませんか。</p>